

BRC Z2

ビーアールシー

ビモータオリジナルパーツ を装着した美麗カフェ

TIRE : DUNLOP TT100GP [F]100/90-19-[R]130/80-18



- ベースは'75年式。φ36mmフォークおよびステムまわりは純正でハンドルのみトップブリッジ一体型のトマゼリ製に変更
- タンク、シングルシートはビモータのオリジナルを海外から探し出し、輸入したもの。ライディングの利便性などを考慮して決定されたタンク表面のライン、赤/白のカラーリングなどは、どこから見ても当時のビモータスタイル。何より当時のオリジナルであるというのがすごい
- エンジンはヨシムラ製φ69mmピストンにて746→860cc化、そのほかはヨシムラカムを組むのみでノーマルベースでO/Hされている。キャブはミクニVMφ33mm
- 1.85-19/2.15-18→2.15-19/2.50-18サイズのホイールはBRC製砂型セブンスターキャスト。カンパニョーロでなくあえてセブンスターという点にもこだわりを感じる



装着されている外装は本物の当時モノ

イタリアの雄、ビモータと言えば70年代、オリジナルのトラスフレームにホンダエンジンを搭載したHB、ススキエンジンを搭載したSB、カワサキエンジンを搭載したKBなど、数々の優れたカフェレーサーを生み出したことで有名だ。そのキットパーツは当時日本でも販売されていたが、今回BRCが製作したのは、そのビモータスタイルのカフェレーサーである。

「オリジナルパーツにこだわって、日本国内をさんざん探したんですが、40年以上前のパーツなので、まったく見つからなかったんですね。そこで海外のビモータニアがストックしていたオリジナルを探し出して購入、日本に輸入したんです」

そう語るのは、この車両のオーナーにして同店代表の渡邊さん。

そのキットパーツにはサイドカバーも存在したが、この車両ではビート製アルフィンカバーを装着、キジマ製ドレスアップカバー（パフタイプ）、BRC製手曲げシート管に砂型セブンスターキャストホイールなど、日本流のアレンジも随所に盛り込んでいる。スイングアームはビモータ製、リヤサスはコンニ製細巻きタイプとくれば、この外観に異を唱える者は、まずいないだろう。

興味深いのは、この車両が750RSⅡZ2をベースとしていること。あくまでも'70年代ビモータ製キットパーツを装着したZ2カフェという路線を踏襲しているわけで、そういった意味でもコンセプトは終始一貫している。何よりもパーツを探し出す苦労を厭わない姿勢、困難に直面してもブレないコンセプトには、ただただ脱帽するしかないのである。

